

北海学園中期計画(令和2年度～令和6年度)の策定について

学校法人 北海学園

理事長 森本 正夫

学校法人北海学園は、今日まで 130 有余年にわたり、北海道札幌の地に根差し、私学教育のパイオニアとして歩み続けてまいりました。この間、「百折不撓」の精神で幾多の試練と苦難を乗り越え、地域社会との信頼関係を築きながら、社会の各方面で活躍する数多くの有為な人材を輩出しております。

現在、私たちは変化が激しくかつ困難な課題の山積する時代を生きております。そんな時代であるからこそ、現象に翻弄されることなく確かなものを見極め、困難に屈することなく未来を切り拓く、そんな人間像が強く求められています。それはいつの時代にも北海学園の教育が目指してきた人間像でもあります。

北海学園は、これからも時代や社会の要請、地域社会の負託に応えつつ、困難を乗り越えて逞しく生き抜き、新しい時代を切り拓く人材を育成したいと決意を新たにしております。また教育機関としていっそう充実・発展を図り、広大な北海道、そして北方圏を代表する国際都市札幌と共に歩み続けたいと願っております。

そのような思いを具現化するため、学園全体として検討を重ね、以下のとおり中期計画(令和2年～令和6年)を策定いたしました。計画の実現に向けて一步一步着実な取り組みを進め、さらに本学園の教育力を向上させて教育機関としての使命を果たしてまいります。

北海学園中期計画(令和2年度～令和6年度)

I. 北海学園の基本理念・基本構想

A. 北海学園の基本理念とミッション

学校法人北海学園(以下「本学園」という)は、1885(明治18)年に創設された北海英語学校を起源とする。北海英語学校は、札幌農学校予科入学を目指す北海道で唯一の中等教育機関として創られ、英語だけではなく数学・地理・歴史・理学などほとんどの授業を英文のテキストを用いて行ったことから「英語学校」と冠された。北海英語学校の新時代を切り拓くパイオニア養成の理念と志は、今日まで130有余年に及ぶ歴史を刻んできた本学園の教育的伝統となっている。

北海英語学校は様々な苦難の道を歩むが、1905(明治38)年に戦前の北海道では唯一の私立中学校であった北海中学校(現・北海高等学校)、1920(大正9)年には札幌で最初の商業学校として札幌商業学校(現・北海学園札幌高等学校)を設立し、両校は北海道を代表する中等教育機関として多くの有為な人材を輩出してきた。戦後は1952(昭和27)年に北海道で最初の私立大学として北海学園大学を開学、1977(昭和52)年には全国初の公私協力方式の大学として北見市に北海学園北見大学(2006年札幌に移転、現・北海商科大学)を開学した。両大学とも、社会の様々な分野で中核を担う人材を育成し、地域社会を支える役割を果たしてきた。本学園は現在、二つの大学・大学院と二つの高等学校を設置し、約1万1千名の学生・生徒を擁して、北海道を代表する私学としての地位を確立している。

今日、グローバリズムの進展の中で世界は大きな変容を迫られている。全世界でグローバリズムとローカリズムが様々な交錯し、新しい時代への模索が続いているといえよう。またわが国では、少子高齢化や人口減など克服しなければならない困難な課題も山積している。このような先の見通しが難しい時代状況の中にあって、教育機関が果たさなければならない役

割はますます大きなものとなっている。

グローバルな視点を保持しつつ研究と教育について質的向上を図ることは教育機関として当然のことであるが、同時に本学園のような地方に位置する私学は、それぞれの地域の風土・生活・文化に根差した確かな知的基盤となることで、地域社会の発展に寄与するのみならず、グローバリズムに翻弄される社会全体の課題解決にも独自の貢献をすることができると考えている。グローバリズムとローカリズムの両方を見据えながら、望ましい社会の在り方を追究し、その実現に向けた役割を担う人材を育成することに、本学園の新たな存在意義と可能性を見出したい。

本学園は、パイオニア精神を基軸とする教育的伝統を現代の視点で見つめ直しながら、地域に根差し、世界とつながる学園づくりを進め、北海道における私学教育のパイオニアとして、北海道の未来、そして日本の未来を切り拓く人材の育成を使命とする。

B. 基本構想

学園の安定的・継続的な発展のために以下の取り組みを推進する。

(1) 教育研究

学園自体が不断に自らの学園の教育力を検証し、教育力向上に向けた取り組みを推進していくことは、私学経営の最も重要な課題である。学園全体として、より総合的・持続的に教育力・研究力向上に向けた取り組みを推進し、教育機関としての仕組みを整え、その機能の最大化を図りたい。

- ① 時代の要請や社会のニーズに対応した、質が高く特色ある教育・研究の取り組みの推進
- ② 3つのポリシー(アドミッションポリシー、カリキュラムポリシー、ディプロマポリシー)のよりよい形での具現化
- ③ 自己点検・評価の結果に基づく教育力・研究力のさらなる向上、及び学修環境の整備・充実
- ④ 高大連携の推進—高大連携推進協議会の設置
- ⑤ グローバル化への対応—国際教育・国際交流センターの設置を検討

- ⑥ 教育研究組織の見直しを推進、統合的な教育研究組織の配置を検討
—教育研究所の設置を検討

(2) 組織運営

ガバナンス及びマネジメントを改革・改善し、学園の運営基盤・経営体制の充実・強化を図る。

- ① 公共性・信頼性・透明性を重んじた社会的に適正な運営組織の確立
- ② 積極的な情報公開
- ③ 経営システム、ガバナンス体制の整備—権限・役割、責任の明確化
- ④ 危機管理体制の強化—大規模災害、不祥事への対応策・防止策の整備
- ⑤ 学校法人としての規定の整備、見直し
- ⑥ 学園全体の連携に向けた体制強化—常任理事会の機能強化
- ⑦ 効率的な事務組織の在り方の検討—法人事務局・設置校事務部門の在り方を総合的に見直し、組織機構の改革を推進
- ⑧ 教職協働体制の構築
- ⑨ 同窓会組織との連携強化

(3) 教育・研究環境

安全で快適な教育・研究環境の整備に努める。

- ① キャンパス・校地の望ましい在り方、活用の仕方について具体的な検討の推進
- ② 施設・設備の整備促進
 - a. 北海学園大学新体育館の建設(令和4年)、高校体育館の建設検討
 - b. 校舎等の老朽化部分の点検・整備
 - c. 冷房設備の拡充
- ③ ICT環境の整備、情報セキュリティの強化—更新計画に従って実施
- ④ バリアフリー施設整備の促進
- ⑤ 学生・生徒の安全確保に向けた取り組みの充実
災害緊急時の対応体制の確立、自家発電機など必要な備品の整備
- ⑥ 学生・生徒のニーズに対応した支援

(4) 学生・生徒募集

- ① 多様で優秀な学生・生徒の安定的確保
- ② 広報の充実、情報発信力の強化—学園全体の広報体制・広報戦略の見直し

(5) 財政計画

- ① 健全な財務基盤の確立
〈主な財務比率の目標〉
人件費比率:60%以下、教育研究費比率:27%以上、管理経費比率:6%以下、経常収支差額比率:5%以上、負債比率:15%以下
- ② 安定的で将来に十分配慮した財政運営計画の策定
 - a. 入学者の確保
 - b. 学生生徒等納付金の検討—納付金の改定検討
 - c. 人件費の編成について検討
 - d. 経常費の見直しと節減
 - e. 外部資金の積極的な確保
 - f. 学園債・寄付金の募集
 - g. 減価償却引当特定預金の積立

(6) 地域貢献

- ① 地域の活性化と発展に寄与する—北海道との包括的連携協定の推進、地方自治体との連携強化、地域社会との協働
- ② 地域社会の知的基盤としての役割・活動について検討—地域と連携した取り組みの推進、地域社会のニーズへの対応

(7) 計画の策定と検証

本学園の使命、ビジョンに基づき 5 年ごとに中期計画を作成する。また、中期計画を具体化し、単年度事業計画を策定する。計画の達成に向けて、PDCA サイクルに基づいた着実な検証を実施し、本学園の可能性と課題を明らかにするよう努める。

北海学園大学中期計画（令和２年度～令和６年度）

（１） 教育研究

北海学園大学は、最高の学術とその応用とを研究教授し、さらに人格の陶冶と身体の錬成とに努め、社会のために有為の人材を養成する。また、高等教育機関として研究成果を社会に還元することを責務としている。

- ① 本学の３ポリシー（ディプロマ・ポリシー、カリキュラム・ポリシー、アドミッション・ポリシー）に基づく人材の育成を行う。
- ② アセスメントポリシーを策定し、PDCA サイクルを確立する。
- ③ 地域課題を的確にとらえ、企業・地方公共団体等との連携を強化し、地域密着大
学としての使命を果たしていく。
- ④ 引き続き向学心に満ちた社会人に門戸を開き、生涯教育の地域拠点としての機能を果たす。
- ⑤ GPA 制度の活用と教育成果の可視化及び教育の質保証に取り組む。
- ⑥ FD 活動としての研修会・ワークショップなどを積極的に実施し、教育内容・方法及び学修指導等の改善に向けて取り組む。
- ⑦ アセスメントテストの実施により、学修成果・到達度（知識・技能・態度）の測定により、教育効果や課題を認識し、学生個人の学修指導体制を強化していく。
- ⑧ 学生のニーズに対応するため、道内外の他大学との連携強化を進める。
- ⑨ グローバル化推進のため、海外協定大学との連携強化を進める。
- ⑩ 科学研究費等外部研究資金の獲得を推進する。
- ⑪ 教員の研究成果の発表の機会として、北海学園大学出版会の活用を推進する。

（２） 組織運営

時代に即応するため、意思決定を迅速に行う体制づくりを行う。

- ① 学長意見を整理する機関としての学長室の効果的運用を行う。
- ② 危機管理体制（災害・不祥事等への対応）を強化する。
- ③ 大学を取り巻く環境の変化に対応するため、新部局の検討を含め事務組織の見直しを進める。
- ④ FD ならびに SD の効果的実施により教職員の資質・能力の向上を図る。
- ⑤ 教職協同体制を推進する。

(3) 教育・研究環境

- ① 寄付金等の募金活動を強化することを通じて、教育振興資金奨学金等の奨学金制度の充実を図る。
- ② 学生の運動・休憩・健康維持の場として、また地域との交流の場として新スポーツ/文化交流複合施設を建設する。
- ③ 学内の建物のバリアフリー化を推進し、障害を持つ学生の受入れ体制の整備を行う。
- ④ 学生相談・メンタル・ケア、発達障害等へ対応を強化するため、学生支援コーディネーターの配置とカウンセラーの増員等体制整備を行う。
- ⑤ アクティブラーニング型授業等の推進のため、「学び」を支える場として「ラーニングコモンズ」など、施設の充実を図る。
- ⑥ 地球温暖化の影響による夏場の室温上昇への対策を実施する。
- ⑦ 豊平キャンパス、山鼻キャンパス、清田校地のアクセスを含めた複合的運用を図る。
- ⑧ 敷地内全面禁煙の定着化と周辺地域を含めた受動喫煙防止対策。
- ⑨ 「学園緑化・魅力化計画」を策定し推進する。

(4) 学生募集

- ① アドミッション・ポリシーに沿った学生の確保に努める。
- ② 安定した大学経営のために、入学定員の確保と共に入学者の学力水準を維持する。
- ③ 多面的・総合的な入試方法を検討する。
- ④ ネット出願等受験生の利便性を考えた出願方法をより効果的に運用していく。

(5) その他

- ① 同窓会組織との連携強化を進める。
- ② 他設置校との連携強化を進める。

北海商科大学中期計画（令和2年度～令和6年度）

（１）教育研究

- 1-1 本学の3ポリシー（ディプロマ・ポリシー：学位授与方針、カリキュラム・ポリシー：教育方針、アドミッション・ポリシー：入学者受け入れ方針）を堅持する。

本学の3ポリシーの堅持と、本学の教育目標（「アジアの時代にアジアを学ぶ」）に基づく教育を継続し、発展を図る。

- ① 少人数教育とバイリンガル教育（日本語と中国語あるいは韓国語）の充実
- ② 海外協定校との学部相互留学（中国山東大学威海、中国煙台大学、韓国大田大学校）の継続的实施、及び海外協定校等との大学院留学交流（相互）の継続的实施と発展

1-2 教育の質的向上

最近の教育改革の成果も参考としつつ、教育の質を充実する。

- ① 「成績評価の方法・基準」についての検証
- ② シラバス・チェックのあり方や効果的チェック体制及び全学的統一基準などについての検討
- ③ 学内座談会やピア・レビューなどの自己点検・評価活動の継続的实施
- ④ アクティブ・ラーニングの実現に向けての継続的検討
- ⑤ 北海学園大学との単位互換制度（人文学部及び大学院経済学研究科）の継続的活用

1-3 教員の研究強化

教員の研究活動を活性化し、その研究成果を学生、社会に発信する。

- ① 教員の研究実績の向上
- ② 科学研究費等公的研究資金の獲得促進
- ③ 研究推進支援体制の整備の検討
- ④ 中国社会科学院との継続的研究交流

（２）組織運営

2-1 教学体制・運営の見直し

建学の精神並びにこれを受けての大学の使命・目的及び教育目的、さらには3つのポリシーに基づいた教育課程に適合した教学体制・運営を図る。また、これらを通じて

教学体制をはじめとするガバナンスの充実・強化を図る。

- ① FD 委員会をはじめとする各種委員会間の連携体制の再検討(SD 委員会との連携を含む)
- ② 大学院研究科の教育課程における専門性の高い有能な若手研究者の養成を検討
- ③ 危機管理の強化(教員の採用・適格性対策など)
- ④ コンプライアンス体制の整備・充実による職場環境の維持・改善(ハラスメント防止や禁煙等)
- ⑤ 情報公開の整備・充実

2-2 事務組織の見直し

学生サービスの向上・充実と効率的な組織づくりを目的として、組織の見直しを行う。

- ① 学生サービスの向上・充実に向けた事務組織の見直し
- ② 職員の資質向上活動(SD: Staff Development)の強化(FD 委員会との連動を含む)

(3) 教育・研究環境

学生にとって快適な教育環境を創造していく。

- ① 北海学園奨学金の継続的給付
- ② 就職支援ポータルサイト「ミナトコム」(北海学園大学との共用システム)の利用促進
- ③ 就職支援講座における支援内容の拡充・強化
- ④ 体育施設の整備
- ⑤ 温暖化対策
- ⑥ 受動喫煙防止対策
- ⑦ 学内食堂(レストラン・カフェ機能)の充実化に向けた検討
- ⑧ バリアフリー化の継続的推進
- ⑨ 中国学術文献オンラインサービス(CNKI)の継続的利用
- ⑩ 東アジア学術図書及びビジネス・観光学術図書の継続的購入
- ⑪ 英文電子ジャーナルの利用拡大
- ⑫ 高等教育の無償化への対応

(4) 学生募集

4-1 入試改革・学生確保

本学では「国際交流」をキーワードに、独自の教育システムとカリキュラムを展開し、国際ビジネスと国際交流の分野でリーダーシップを発揮できる優れた人材の育成を目指している。本学の教育方針に基づいて、グローバルな世界において活躍しようという意欲ある学生を求める。特に、北東アジア地域における言語・文化・社会及び国

際関係に強い関心を持ち、学習することへの興味と幅広い問題意識を持つ学生の入学を図る。

- ① アドミッション・ポリシーの一層の周知
- ② アドミッション・ポリシーと推薦入学試験やその他入学試験との適合性強化
- ③ 高大接続の一体的改革の理念を踏まえた入試制度改革の検討
- ④ 多面的・総合的な入試方法の検討
- ⑤ 共通テストへの対応（英語外部試験等の活用を含む）

4-2 広報戦略

広く社会に対し、特色を含めた本学への一層の理解浸透を図る。

- ① 大学ホームページ（大学ポートレート（私学版）を含む）及び SNS 等による情報発信の向上
- ② その他（北海学園系列他校との広報連携など）

（5）社会貢献・連携

「アジアの時代にアジアを学ぶ」という教育目標（大学の使命・目的）を掲げた本学は、アジア圏地域と地元地域とを結びつけた学術活動と教育活動を推進しており、これらの活動を通じて社会への貢献・連携を進める。

- ① 東アジアを冠した公開講座の継続的開催
- ② 交流協定を締結している自治体等との継続的連携（北海道、栗山町など）
- ③ 社会人再教育（大学院研究科）

北海高等学校中期計画（令和2年度～令和6年度）

I. 北海高校の基本理念とミッション

★建学以来の基本精神 『質実剛健・百折不撓』

明朗・快活で己を飾らず、誠意を持って物事に当たり、
どんな困難に出あってもくじけない強い意志で自分を鍛え、
社会に貢献する有為な人材を育成する。

教育目標

本校の教育活動の基本的観点は、次の3つである。

1. 真理の探究と高い知性の習得をめざし、無限の可能性に挑戦する。
2. 豊かな人格を養い、正しい判断力を培い責任を重んじ、積極的に行動する。
3. 何事にも耐え得る健全な心身を養い、すぐれた文化を創造する。

さらに、本校は、1999(平成11)年の共学への移行に際して、新たに「育てたい人間像」を教育目標に加えた。

「育てたい人間像」

Be Independent! 独立心を持った生徒

Be Responsible! 信頼される生徒

Be Active! 「生きる力」を備えた生徒

Be Gentle! 多様性を認め合う生徒

これらの教育目標に沿った指導の重点目標は、生徒の多様な能力や個性を伸ばし、それぞれの進路目標を達成させるように指導すること。また、変化する社会（Society5.0など）を積極的・主体的に生きぬくたくましさを育てることである。

本校はこの間、「個性を重んじる人間教育」の上に、三本柱（①進路、②部活動、③国際）を重点課題として位置づけ、①の相対的強化、②の重点化、③の発展を図ることに努力を重ねてきている。

北海高校の教職員は、今日の学校教育が、一人ひとりの教育的ニーズに対応し多様化する教育課題を解決する新たな学校づくりを進めていかなければならないことを認識した上で、私学人として建学以来の基本精神を大切に、改めて「育てたい人間像」をめざした教育活動に最大限の努力を重ねることを使命とする。そのためにも、共学後20年間の教育活動の検証に努め、教職員それぞれが本校の強み、弱みを主体的に理解し、

共通意識を持って今後の教育活動に活かしていく。それが、「育てたい人間像」(ビジョン)に具体性を持たせ、生徒・保護者、社会からの信頼と評価が得られるようになるものとする。

「育てたい人間像」への基本的なアプローチ

- 北海高校で学ぶことの誇りを持たせ、百折不撓の精神で、進路、部活動、その他の活動に対して自己の目標を体現させる
 - 北海高校の歴史についての学び
 - 学校生活全体の中に生徒の主体性を育む教育活動の展開
 - 学習活動を中心に「Plan」「Do」「Check」「Action」を実行
 - 生徒の自己効力感を高めるための取り組み
- 新カリキュラム「北海エポック」の作成は、コース改変などを視野に入れた北海新時代の集大成となるものであり、2020年度内に原案が完成するよう研究・協議を重ねていく
 - 生徒一人ひとりが自ら学ぶ目的と喜びを持つことのできる指導
 - 生き方としての進路指導をベースに、生徒が第一志望を貫くことができるカリキュラム
 - 授業の質を向上

Ⅱ. 教育活動充実への取り組み

(1) 教育内容・方法の質的転換（教育力の向上をめざして）

- ① 生徒・保護者の声、外部評価の重要性を認識し、検証と向上に努める
- ② FD(ファカルティ・ディベロップメント)活動を通じて教育全体の質的向上を促進させる
- ③ ICT 活用に関する研修の実施
- ④ 授業モデルの開発(外部の研究会や授業公開への参加などを基礎として)とその共有化に努める(Hokkai Teaching Know-how)ことで教師の力量を向上させる
- ⑤ アクティブ・ラーニングに関する研修の実施

(2) 基礎学力の保証

- ① 新学習指導要領に対応するカリキュラムの策定と実施、分析・検討

- ② 年間行事の検証と充実、土曜日の扱いについて具体的な検討をし、授業時間を確保させる
- ③ 1年次の生活習慣・学習習慣の確立の重要性を確かめ合い、その指導を徹底する
- ④ 生徒のメタ認知力向上を意識した指導に努める
- ⑤ 家庭学習時間の確保を保証する
- ⑥ 「総合的な学習・探究の時間」についての研究
- ⑦ 「実のある高大連携」の具体的構築

(3) 進路指導の充実

- ① 生き方としての進路指導を目的に、継続的で丁寧かつ質の高い面談指導を行う
- ② 「大学入学共通テスト」への対応と対策、情報を分析し全教員理解のもと指導に当たる
- ③ 特進クラス・進学コース上位層への(進路別及び個別の)受験指導強化
- ④ Sクラスにおける難関国公立大学への進学実績の向上のために工夫と実践を重ねる
- ⑤ 併設校推薦制度に関わる課題の検討

(4) 国際交流事業の推進

- ① 学園4校による国際交流プログラムの充実
- ② 国際感覚の持った青年の育成を目的に留学生の受け入れ体制を強化
- ③ 海外大学進学に向けた支援体制の研究

(5) 部活動の充実 ※北海の伝統と魅力を作り上げてきた観点から考えていく

- ① 部活動が人間教育の場(知・徳・体のバランスのとれた人間作り)であるということを学校の共通理解として捉える
- ② 部活動に取り組む生徒が、目標を高く持ち、その実現に向けて挑戦する姿勢が保てるよう練習環境の整備に努める
- ③ 学業との両立に努めること、多様な学力(思考力・表現力など)を備えることが部活動の実績に結びつくことを理解させる
- ④ 強化指定(運動)部の在り方について検証するとともにその充実を図る
- ⑤ 奨学金の充実をはじめ、進路に対する保証に努める

(6) 心の教育

- ① 生徒の自主・自律に基づく行動力の育成、自立・共生の心の育成
- ② 学校生活の中、及び社会的な活動を通じてボランティアの精神を育む
- ③ 倫理観、情報リテラシー、選挙権などについての考え方の育成
- ④ スクールカウンセラーによる対応とその充実に努める

(7) 広報活動・募集活動の充実

- ① 入試状況を精査し、募集活動の情報収集に努める
- ② 北海高校が求める生徒像（アドミッションポリシー）を明らかにし、その獲得に努める
- ③ 新カリキュラムを最大限に活かせる入試問題の作成及びその配点などの研究に努める

(8) 組織運営

- ① 北海高校の教職員としての意識統一、教育目標・カリキュラムを理解し責任をもって業務に当たる
- ② ガバナンス及びコンプライアンスの強化
- ③ 危機管理体制の強化（いじめ問題など不祥事への対応）
- ④ 分掌間・学年間の連携強化
- ⑤ 専任教員率の向上、(コース、クラス、部活動などに対応できる)教科指導力、生活指導力、専門性の高い人材の確保に努める
- ⑥ Hokkai Teaching Know-how は、新任教員の教科力向上にも活用させる
- ⑦ 学年主任・教科主任などの役割の定義づけ
- ⑧ 学校ガバナンス体制の強化
- ⑨ 校友会組織などとの連携を図るとともに、積極的な寄付の協力を募る

(9) 施設・校舎に関わる配置計画の研究

- ① 地域ナンバーワンの私立大学を系列にもつブランドイメージのもとで、充実した教育環境の整備に努める
- ② 教育目標の実現のための ICT 教育環境の早急な整備を行う
- ③ 冷房設備の拡充
- ④ 防災計画のもと、生徒の安全性を確保する
- ⑤ 現場の教員、部活動顧問の考えを尊重した新体育館建設に向けてのビジョンづくり
- ⑥ 学園全体の（多様な活用を可とする）教育環境充実を目的にした施設建設の研究

北海学園札幌高等学校中期計画（令和２年度～令和６年度）

【北海学園札幌高等学校の教育理念と方針】

本校は 2020 年に 100 周年を迎えようとしている。創設者戸津高知先生は、教育に対する信念として「真の教育は私学にあり」と述べ、「授業が終われば、生徒も教師も能事終れりとするは真の教育にあらず」と指摘され、徳育の奨励と教師は生徒との座臥進退の時間を大切にせよと述べられている。

また第三代校長の金巻賢字先生は「母校を愛する者にとって、その任務はさらに重く、その道は遙かに遠くある。我らはいつまでも往年の健児のように若く、母校への思慕に燃えて、その少年の日の魂のふるさとを護りつづけなければならないであろう。母校よ、未来に虹を・・・」と母校愛を述べられている。これらの建学の精神を体し、本校は大正 9 年、戦後に急成長を遂げた札幌地区における商業人養成の要望に応え札幌商業学校として北海中学校舎の一部を借り創立した。昭和 18 年には戦時非常措置として工業学校に転換すべしとの通達があり、豊陵工業学校へと転換、戦後直ぐの昭和 21 年に札幌商業学校として生徒募集を再開する。昭和 22 年には新学制の実施により札幌商業高等学校、豊陵工業高等学校と改称し、それぞれが併置中学校を置いていた。昭和 24 年には各種学校北海学院を創立するため、中学と豊陵工業高等学校の生徒募集を停止する。昭和 61 年には男子校から男女共学へと変更。平成 11 年には進学者の増加から商業科に加えて普通科を開設。平成 16 年には進学者の増加と就職希望者の減少を理由に学科転換を実施し、校名も北海学園札幌高等学校へと名称変更する。商業人の養成という当初の目的は学校設定科目として活かしながらも、時代の変化と進学者のニーズに応えた教育へと変貌を遂げた。

現在の教育方針は「未来と世界を見据えて、逞しさと豊かな教養を身につけ、21 世紀社会のリーダーとなり得る質実剛健な人物を養成すること」であり、「国際感覚を持ち、自立と共生の心を育むこと」を教育目標としている。

【カリキュラムポリシー】

教育方針「未来と世界を見据えて、逞しさと豊かな教養を身につけ、21 世紀社会のリーダーとなり得る質実剛健な人物を養成すること」と「国際感覚を持ち、自立と共生の心を育むこと」という教育目標の実現に向けて授業時数を増やし、全日制課程普通科でありながら、学校設定教科や授業選択を多く実施することにより生徒の多様な進路実現に役立っている。特別進学コースは、より専門性の高い難関大学を目指す生徒のニーズ

に応えた授業と放課後講習の実施を行っている。総合進学コースは1年次履修科目を共通とし、その間に進路を定め、2年次からは各々の希望により、国際人の養成を目的とし海外研修を必修としたグローバルコースを設置。このコースでは留学生の受け入れや国際交流の機会を増やし他文化理解に努めさせ、コミュニケーションツールである外国語も英語、中国語、韓国語の3カ国語の履修が可能となっている。メディカルプレップコースは、将来「医療」の仕事を目指している生徒を対象とし、知識は勿論であるが奉仕の精神を育み、豊かな人間づくりに重点を置いている。医療系大学や病院と連携することにより、医療業務体験やボランティア体験を多く積ませ、医療人としての心の養成を目的としている。総進コースは文武両道の精神で個々の目標に向けて、個性を伸ばすことに重点を置いている。英語以外に中国語の選択が可能であったり、プレインターンシップの機会や、ファイナンシャルプランナーの資格取得の機会を設けたりと多様な選択が可能である。併設大学への進学を希望する生徒が多いのも特徴となっている。どのコースも多様な進路希望に対応し、海外、国内ともに生徒の希望に添った進学実績を残しており、21世紀社会の担い手として相応しい優秀な人材を輩出することを目指している。

【教育活動の充実への取り組み】

教育再生実行会議の「人口減少や少子・高齢化が急激に進む中で、地方創成を進めることが重要である。さらに、人生100年時代を迎える中、AIやIoTなどの技術の急速な発展に伴うSociety5.0が到来するとともに、グローバルな競争が激化する。これらの変化に対応し活躍できる人材育成が急務であり、新たな時代を見据えた教育再生を大胆に進めることが必要である」という提言に基づき、教育改革が推進されようとしている。新時代に対応した高等学校改革が構想され普通科において、学習の方向性に基づいて学科を類型化することなどの検討も求められている。これらの状況と生徒・保護者からの外部評価、教職員による内部評価を踏まえ教育活動を充実させる為の検討を行っている。

（1）授業への取り組み

週の授業時数を増やし、学校設定教科や授業選択を多く実施し、4つのコースから選択させることにより生徒の多様な進路実現に応える。また、進路指導、放課後講習などを充実させ進路実現に向けて取り組む。

- ①**特別進学コース** より専門性の高い難関大学を目指す生徒のニーズに応えた授業と放課後講習の実施。
- ②**総合進学コース** 1年次履修科目を共通とし、その間に進路を定め、2年次からは各々の希望により3コースより選択。

- ・ **グローバルコース**

国際人の養成を目的とし海外研修を必修とし、留学生の受け入れや国際交流の機会を増やし他文化理解に努めさせ、コミュニケーションツールである外国語も英語、中国語、韓国語の3カ国語の履修が可能。

- ・ **メディカルプレップコース**

「医療」従事者を目指している生徒を対象とし、奉仕の精神を育み豊かな人間づくりに重点を置いている。医療系大学や病院と連携することにより、医療業務体験やボランティア体験を多く積ませ医療人を養成。

- ・ **総進コース**

文武両道で個性を伸ばすことに重点を置いている。第2外国語として中国語の選択が可能。プレインターンシップの実施。ファイナンシャルプランナーの資格取得の機会を設けるなど多様な選択が可能。併設大学への進学を希望する生徒が多い。

(2) 国際理解教育

- ① 高大連携により語学指導者を派遣いただきトライリンガルの育成に努める。
- ② 海外協定校との相互交流。
- ③ Global Village、Global Summer Camp の実施。
- ④ カナダでの語学研修、ニュージーランド・台湾等の協定校への中期・短期語学研修。
- ⑤ 多文化理解のための講演会の実施。
- ⑥ 海外協定校からの留学生を支援するための「国際教育・国際交流センター」の設置検討。
- ⑦ SUPER GLOBAL HIGH SCHOOL ASSOCIATE 校として文科省から指定され研究してきた実績の継承と発展プランであるWWLコンソーシアム構築支援事業への応募を検討。

(3) 高大連携

- ① 併設大学への併設校推薦の充実と入試制度の検討と検証。
- ② 各学部と実施されている学習チューターシステムの継続。
- ③ 法学カフェ、出前講義、大学からの講師派遣協力、教職課程への協力、イングリッシュサポートラウンジ、授業見学の受け入れ、体育施設の共用協力、部活動における連携、入試広報協力などの継続と検討。更なる高大連携の推進。北海学園大学工学部の協力により始まったSTEAM教育の推進。高大連携推進協議会設置の検討。
- ④ 同一法人以外の大学（札幌保健医療大・日本医療大・千歳科学技術大）との連携

強化と充実。

(4) 地域社会への貢献と連携

- ①旭水町内会との連携協力（冬期間の除雪協力、老人会・イベントなどへのボランティア派遣、災害時の相互協力）。
- ②愛全病院（連携協力病院）や福祉施設へのボランティアスタッフ派遣及びインターンシップへの協力。
- ③地域の交通安全啓発行事への協力。

(5) 部活動

- ①32 の部活動に対する強化、振興策の検討。
- ②働き方改革に沿った指導体制の検討。
- ③練習環境の整備。

(6) 心の教育

- ①国際感覚を持ち、自立と共生の心を育む。
- ②10代の若者としての心構えを学ばせる。
- ③高校入学時にグループエンカウンターを取り入れた Global Village を実施し、本校生としての心構えや集団形成に努める。
- ④情報リテラシー、性教育、薬物乱用防止、SDGs、選挙権などについての各種講演会や芸術鑑賞の実施。
- ⑤スクールカウンセラー、精神科医による相談対応の実施。

(7) 入試広報

- ①入試室の設置。
- ②中学校、塾への説明会開催と訪問。
- ③宣伝媒体の検討。
- ④法人全体での広報活動の充実。
- ⑤中学校への講師派遣協力。

(8) 施設設備・環境整備

- ①ICT教育環境整備の検討。
- ②冷房設備の拡充。
- ③グラウンドの人工芝化及び体育館施設更新の検討。
- ④バリアフリー対応施設への改修。
- ⑤情報セキュリティの強化。

⑥校務システム改善への検討。

(9) 組織運営

- ①危機管理体制の強化（防災・不祥事・生徒トラブルなどについて）。
- ②ガバナンス及びコンプライアンスの強化。
- ③分掌、学年、事務などにおける意識統一と各部署間の共通意識の醸成。
- ④主任、部長、教頭、校長への報告、連絡、相談の励行。
- ⑤学校ガバナンス体制の強化。
- ⑥校友会組織との連携、協力。

(10) 検討課題

- ①設置校4校が相互理解を深め、双方の教育の充実改善に資することを目的とした教育研究機関の設置の検討。
- ②大学入試における調査書の電子化、JAPAN e-Portfolio への対応と検討。
- ③新学習指導要領への移行に向けた検討。
- ④留学生や不登校生徒、病気や障害を抱えた生徒の支援という観点から遠隔教育システム導入の検討。
- ⑤教員採用における優秀人材の確保と先端技術導入による教師への授業支援。

北海学園札幌高等学校が発展し続け、生徒たちの明るい未来への架け橋となれるよう、以上の取り組みを検討、推進する。